

2026

奈良山通信

No.47

今年も宜しくお願いします
平和な世界でありますように……

↑ 奈良山供養塔の銘板箇所が増設されました

撮影場所：奈良山供養塔前広場

苑内MAP

第1期 墓地区画
(上から一段目)

第2期 墓地区画
(上から二段目)

2期 樹木葬
1期 樹木葬

第3期 墓地区画

奈良山供養塔

ご受付に
お力を
願います。

- 車いすをご使用の方が参列される場合は、事前にお知らせください。
- 駐車スペースには限りがあります。乗り合わせのご協力をお願いします。

霊苑入口、六地藏様を過ぎた
右側広場と管理事務所の駐車
場もご利用ください。

2026 合同法要祭

ごあんない

3/29 (日)

タイムスケジュール

- 10:00～第1期樹木葬霊域
- 10:30～第2期樹木葬霊域
- 11:00～永代供養塔霊域
- 11:30～鬼城太鼓演奏 常務 今年も演奏します♪
鎮魂の太鼓演奏を行います。ご観覧ください。
- 12:00～フラダンス ～初出演～
- 12:30～15:00 説明会

※予約優先のご案内になります TEL: 0895-45-0164

霊苑周辺の宿泊施設

- ・名称 (所在地：鬼北町〇〇)
 - ・ネイチャーホテル・ナルカワ (奈良)
 - ・コワーキングスペースwarmth (近永)
 - ・小松屋旅館 (小松)
 - ・農家民宿 ログ杉の家 (川上)
 - ・農家民宿 山あじさい (奈良)
 - ・民泊 絹家 KINUYA (出目)
- 鬼北町内には「いちご狩り」を楽しめる施設が2ヶ所ありますよ～♪
- ・あかまつ農園 (近永)
 - ・鬼北町農業公社 (岩谷)
- ※お問い合わせは各施設へお願いします



昨年発行された月刊石材(石材店向けの月刊誌)12月号の表紙に、(株)山下石材が建立したお墓の写真が掲載されました。お墓の記事が10ページにわたって掲載されました。

【世伝石塔】の五輪塔や宝塔を主に掲載していただきましたが、苑内の奈良山供養塔や大日如来像も取り上げられています。

興味のある方は管理事務所へお声かけください。

「月刊石材」

待望の!!

カーブミラー周辺に【離合】場所できました

樹木を伐採、生垣を剪定し舗装しました。対向車とすれ違いやすくなりましたよ♪
作業の際にはご協力いただき有難うございました。

発信元：奈良山霊苑管理事務所

〒798-1351
愛媛県北宇和郡鬼北町奈良4230-1
電話番号 0895-45-0164
FAX 0895-45-2860
携帯 090-7142-4100
http://narayama-reien.jp
営業時間 9:00～16:00
定休日 日曜・祝日・年末年始

桜 ライトアップ

毎年好評♪(3/20頃～)
お待たせしました！
霊苑入口の桜のライトアップを行います。
お花見や夜桜をお楽しみください。



お預かりしています

昨年11月の忘れ物



中には線香・ライターマッチが入っていました。

令和8年は60年ぶりの「丙(ひのえ)」と「午(うま)」の年

「丙」と「午」どちらも火の性質を持つことから、エネルギーが外へと伸び、活発に動くことで運気が巡りやすくなり、挑戦や発展が促される年とされています。

勢いがある年だからこそ、楽しみながらも無理のないペースを大切に、穏やかな日々が広がることを願っています。

皆さまにとって健やかで幸多き一年になりますように。



専務のコラム



先月、地元・松野町の駅伝大会があった。

昔は松野町の10分館で競っていたが、現在は少子化の影響で不参加や合同での参加となり、松野中学チームを併せて7チームでの大会となっている。

小学生から50歳代まで、年代別に9区間17.4キロを駆け抜けるが、足に自信のある選手もいれば無理やり走らされる選手もいる、というのが田舎ならではの駅伝大会である。

15年前に4377人いた松野町民は現在3400人となり、小さな地区では小中学生がいない！という地区も出てきた中、選手の選考に苦慮しながらも56年続いているのは、歴代地区役員のひとかたならぬ苦勞があつての事と頭の下がる思いである。

そんな中、山下武久社長率いる松丸チームは毎年1月開催の大会に向けて3か月前から練習が始まる。昨年6連覇を果たしただけに武久監督の意気込みも強く、荒い鼻息で吹き飛ばされそうになる。

仕事や家庭の事情で参加できない選手は、早朝や夜間の空いた時間に個人練習してもらうが、小中学生たちは監督指導の下で走り込みをする。小学5年生から選手として参加している中学生たちは、早やもう受験生だという。あの、口数の少なかった小学生が、今では彼女を連れて「こんにちは」とはにかんだ笑顔で挨拶してくれるようになったりすると、親でもないのに胸が熱くなる。子どもたちの成長を毎年見ることが出来るのも、地区役員の醍醐味だろう。

大会前日には、監督が選手一人一人に目標タイムを書いた手紙とユニホームを手渡す。クリアしたことはないが頑張ればイケるかも、と思える目標設定がミソなのだ。日頃練習を見ているからこそその信頼関係なのか、強引な監督に口答えが出来ないだけなのかは定かでない。

当日の朝、揃った選手たちを前にこれまた一人一人にアドバイスを送る。数年ぶりに出場し初めての区間を走る選手もいたりするが、「〇〇くんの遅れをこの区間で〇秒カバーしてくれ」と本人目の前で言うと、「お願いします」と頭をかきながら言い、みんなが笑顔でうなづく。

そして本番では、なんと、〇〇くんも含めたほとんどの選手が目標タイムを上回り、見事7連覇を勝ち取った。昨年区間賞を逃して悔しい思いをした中学生も、今年は断トツのタイムで区間賞を取り悲願を達成した。小学5年の女の子は6年男子に混ざって走り目標タイムを10秒以上縮め、出産から1年も経っていないママは、愛妻家のパパからのタスキを受けて最長区間を全体3位の好タイムで感動の走りを見せてくれた。ほんと、オバチャン泣いちゃったよ。



小さな町の小さな駅伝大会ではあるが、子どもも大人も関係なく全員が一つの目標に向かって全力を尽くし、応援し励まし肩を抱き合う。今年も良い大会だった。



先の衆院選では高市総理の圧倒的な支持を追い風に自民党が大勝利を収めた。物価高、少子高齢化、環境、貧困、福祉など多くの社会問題を抱えながら、今タスキを持って走っているのは私たちに他ならない。果たして次の世代にどんなタスキを渡すのか。無関係ではすまされないだろう。